

【喫茶★りんり】通信

News letter 第7号 2003年4月18日発行

新入生の皆さん、入学おめでとうございます！



上の写真は、本学看護学科小児看護学講座助手の中富利香先生が、兵庫県西宮市へ行かれた時に、夙川の桜並木を撮影されたものを提供して下さいました。中富先生どうもありがとうございましたm(_ _)m

15年度新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます(^ ^) / 入学式も終わり、14日からは講義も始まりましたが、宮崎での新生活はいかがですか？

【喫茶 りんり】のマスターも、昨年の4月に宮崎医大に着任して以来、はや1年が過ぎてしまいました。今年度も、頑張ってお開きしておりますので、新入生の皆さんも、是非一度、【喫茶 りんり】へ足をお運びください(^ ^)

さて、毎月1回のペースで発行してきました【喫茶 りんり】通信ですが、1ヶ月ほどご無沙汰してしまい、どうもすみませんでしたm(_ _)m え？別に誰も心配してなかったから、気にしないでいいって？・・・それはそれで、ちょっと悲しいかも・・・(TT) さてさて、兎にも角にも【喫茶 りんり】通信、第7号をお届けします。

医学科6年生「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」 クラークシップ実習指導はじまる！

今年度4月1日より、新しく医学科6年生のクリニカル・クラークシップ(学生的身分でありながら、チーム医療の一員として実際に患者さんの診療に参加するプログラム)実習指導が始まりました。宮崎医科大学では、臨床医学系のみならず、基礎医学系・基礎教育系でも、クラークシップ参加学生の受け入れを行い、哲学・倫理学研究室でも、2週間単位で最大8名の受け入れが可能となり、**20週で合計31名**の学生さんが「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」クラークシップへの参加を希望してくれました。

宮崎医科大学が**全国初**の試み！

現在、日本の医学教育の中で「医の倫理」の必要性が声高に強調されているにもかかわらず、6年生のクリニカル・クラークシップにおいて、哲学・倫理学あるいは臨床倫理のプログラムを明確に位置付けている大学は、ほとんどない(1、2年次の基礎教育にはあっても)のが実状です。そんな中で、佐賀医科大学では、白浜雅司先生が1995年という異例とも言える早い段階から、6年次の臨床倫理教育プログラムを先進的に推進して来られていました。今回、宮崎医科大学でも、ようやく今年度から開始できたこととなりますが、6年次へのクラークシップ「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」プログラム導入は、おそらく**佐賀医大に次いで2番目**、哲学・倫理学を専門とする教官によって6年次の臨床倫理クラークシップが実施されるのは、**宮崎医科大学が全国初**のケースになります。

以下に、「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」クラークシップに参加してくれた6年生の感想の一部を紹介させていただきます。

Q.「臨床倫理」とはどのようなものか、理解できましたか？

・ECC(エシックス・ケース・カンファレンス)を何度も行うことで、医療の質が向上していくのだ、ということを経験的に知ることができ、また臨床倫理の持つ意義を、言葉だけでなく、肌で感じる事ができた。

・「臨床倫理」という言葉の概念的な説明だけでなく、いくつかの**実際にあった臨床ケースをもとに、ディスカッションを重ねることで**、実際の臨床現場で直面する倫理的な問題点を、具体的に考える事ができた。

・実際にあった臨床ケースについて話し合ったり、これまでの判例を学んだり、**法律上認められている医師・患者、それぞれの義務と権利についての正しい知識を得ることで**、個々のケースを全体的・包括的に捉えつつ、かつ患者さんの視点を意識する、ということの必要性を理解する事ができた。

・ひとつひとつの臨床ケースを、じっくりと検討してみると、現場に居合わせた医師や看護師の**何気ない言葉や態度の中に、大きな倫理的問題点が含まれていること**に(以前より)気付けるようになり、**患者さんと患者さんのご家族の視点にたつて考えるための重要な視点を知る事ができた。**



写真は、【喫茶 りんり】での「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」クラークシップECCの様子。

Q.臨床倫理クラークシップで学んだことを、今後の臨床現場で役立てることができそうですか？

・はじめは慣れるまで時間がかかると思いますが、慣れてくると数々の臨床ケースが孕んでいる幾多の「モヤモヤ」したものをハッキリと自覚することができ、それを言葉にしてチームのメンバーで話し合うことが、患者さんの望む医療の実現にとつてだけでなく、結果的には自分たち自身の精神的ケアにもつながるのだ、ということを実感できたので、現場に出ても是非、実践していきたいと思う。

・臨床の現場で自分なりに気付いた倫理問題について考える時に、今回学んだ臨床倫理の4分割チェック・シートを用いれば、考えるべきことがスッキリと見えてくるし、またシートに基づいたECCによるディスカッションを行うことは、医師同士だけでなく、看護師をはじめとするチーム全員とのカンファレンスを行うための良い訓練になった。

・実際の臨床現場では、さまざまなことに急かされてしまい、どこか納得のいかないものを感じつつも、それが何なのか自分でもハッキリと見出しにくくなってしまいう状況に直面することが多々あると思うので、何が「モヤモヤ」したものを感じたら、常に自分の置かれている状況を冷静にとらえるためにも、4分割チェック・シートを活用し、重要な問題を見過ごさないためにも、今回のクラークシップでのディスカッションを思い出し、頑張りたいと思う。

Q.臨床倫理クラークシップに参加してみて、特に良かった点、改善した方がよい点、を教えてください。

・ 今まで何となく気づいていたけれど、目を反らしていたことに正面から向き合え、自分を見つめ直すことが出来たのが良かった。

・ もっと時間が欲しい。2週間では短い、と感じた。もっとさまざまな臨床ケースについて自分で考え、みんなで話し合っていたらと思った。

・ 実際にあった臨床ケースをもとに、そこに含まれている倫理的問題点について、何人かでディスカッションを行うことで解決の道筋を見出ししていく、というECCは、とても良い経験

でした。自分ひとりで考えていたのでは見えていなかった問題点についても、みんなの意見を聞くことで気付かされ、ディスカッションすることの重要性を痛感しました。

・ 改善というわけではありませんが、実際の臨床現場ですべてに働いておられる医師や看護師のみなさんといっしょに、話し合っていたい、と思いました。

・ クラークシップ前半で、一度ECCを行い、いくつかの具体的な症例について考えた後で、抽象的な学習(哲学的な思考方法)について学び、また再び後半でECCに戻る、という経路を辿ったので、哲学的な思考方法について学ぶ以前と以後とで、自分の考え方、考える視点の変化に気付くことができた。このプログラム構成が特に良かった。またターミナルケアの現場で働いている人達の、生の声を聞いたことが、とても印象深かった。一生、忘れないと思います。

・ できれば緩和ケア病棟の内部も見学したかったです。



【ベッド・サイド・カフェ】のお知らせ

昨年8月以来、各地でOPENさせて頂いております【ベッド・サイド・カフェ】出張オープンですが、皆さまのお陰で、2003年4月中旬現在、12号店(全23回開催)までの開店が決ま

っております。オープン準備にご協力くださった多くの皆さま、本当にありがとうございます。今後のオープン予定を以下、一覧表にさせていただきますね。

= お店の号数は、オープン依頼を頂いた順番になっています。 =

2003年4月26日

1号店(第3回): 藤元病院勤務中村さん宅(都城市)

2003年5月14日

9号店(第1回): 潤和会記念病院(看護部)

2003年5月30日

3号店(第2回): 国立療養所宮崎病院(看護部)(川南)

2003年6月14日

12号店(第1回): 国立療養所宮崎東病院(院内研修)

2003年7月12日

10号店(第1回): 国立熊本病院(看護部)

2004年2月17日

6号店(第4回): 宮崎市郡医師会病院(院内研修会)

下の写真は3月10日に行われた宮崎医科大学附属病院看護部での【カフェ】の様子。



<<発行責任者>>

宮崎医科大学医学部 哲学・倫理学研究室 講師

【喫茶 りんり】マスター 板井 孝吾郎

TEL&FAX 0985(85)1780

E-mail: koichiro@post.miyazaki-med.ac.jp

ホームページ出来ました!

<http://www.miyazaki-med.ac.jp/philosophy/index.html>

